



●あべ・よしお (77歳)  
福島県出身。自衛隊南恵庭駐屯地の車両部隊責任者の立場から、地域の交通安全運動にも積極的にかかわる。平成15年、恵庭交通安全地蔵尊維持会第4代会長に就任。今年7月、地蔵尊建立50周年記念事業を計画している。

まだない時代だった。  
「千歳から恵庭の市街に入る直前まで、道路の南側（現恵南地区）は樹木がうっそうと生い茂っていました。特にユカンボシ川辺りは

交通安全を願って50年。  
お地蔵さんが交通事故で  
亡くなった人々を鎮魂。

阿部 良雄さん 駒場町在住

北海道開拓期には室蘭街道と呼ばれた国道36号線。今では1日3万台以上の交通量を誇る道内有数の過密道路の一つだ。この国道36号線のうち、札幌・千歳間が舗装されて開通したのは昭和28年11月。駐留米軍の強い要請があり、わずか1年という短期間に突貫工事で完成したことなどから当時は弾丸道路とも呼ばれた。  
それまでは国道とは言ってもこぼこの砂利道。雨が降れば水溜り、天気の良い日に車が走ればもうもうとほこりが立ちこめて目も開けられないくらい。人も車も注意して進まなければならなかった。それがアスファルトで舗装されて、道が平らになってからは車のスピードがぐんと上がった。しかし、一方で人々は車のスピードに慣れていなくなった。道路交通法も

おじいちゃん、おばあちゃんへ

「いつも折り紙やカルタで遊んでくれてありがとう。夏になったら、またキャンプにつれてってね。みんなで一緒に焼肉いっぱい食べたいな。楽しみにしてるね」

おじいちゃん、おばあちゃんへ

「いつもいっぱい遊んでくれてありがとう。本も買ってくれてうれしかったよ。僕、星来に本を読んであげたんだ。春休みにみんなで遊びにいこうね。また、一緒に遊ぼうね」

伝言  
でる  
TEL

自宅にて

松田 滯くん (左) - 6歳 -  
松田 唯吹くん (右) - 3歳 -  
豊岡 颯真くん (右) - 6歳 -  
豊岡 星来ちゃん (左) - 2歳 -



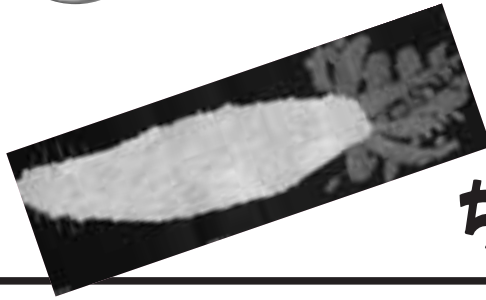
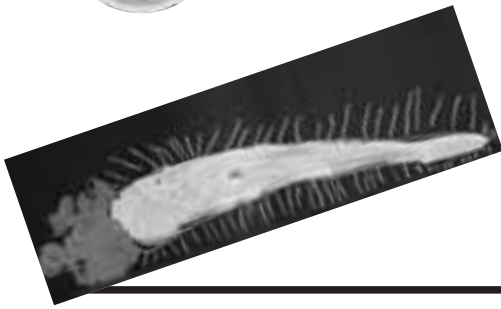
「大根の絵」

鹿内 陽遥くん (5歳)



「大根の絵」

門馬 桃子ちゃん (5歳)



第2 かしわ幼稚園児作品  
ちびっこギヤラリい\*

今と違ってカーブがきつく、見通しの悪い場所でした。ここで、弾丸道路ができてすぐ、1年ほどの短い間に16人もの大勢の人が車にはねられて死亡したんです」と話してくれたのは当時、南恵庭駐屯地の車両部隊にいた阿部良雄さん。当時の様子をこの目で見た、数少ない市民の一人である。

人々はこの惨状に驚き、交通事故の防止と死者の魂を慰めるためにお地蔵さんを建立することを決めた。戸磯農事実行組合の有志10人が発起人となって寄付を募り、企業・団体150社、個人1500人余りが協力し、2年の年月をかけて昭和33年7月に交通安全守護地蔵尊が完成した。場所は現在の和光町1丁目の旧国道縁。以来、毎年7月23日を「地蔵尊祭」の日と定め、交通安全祈願祭を兼ねて交通事故で不慮の死を遂げた人々の魂を慰めている。昭和44年からは地蔵尊護持会を組織して管理にあたっていて、阿部さんは今、4代目の会長を務めている。

「恵庭では50年間で300人近くの人が交通事故で亡くなっています。交通安全運動は片時もおろそかにできない大事な活動です。50年前、交通事故死ゼロを願って、

恵庭発展の基礎を作った人々の残してくれた悲願の象徴である地蔵尊を大切に守り、後世に残していくのが私たちの使命なのです」

今年、地蔵尊建立50周年に当たることから、護持会では地蔵尊の補修、説明看板の設置などの記念事業を行う予定で、広く市民の協力を呼びかけている。また、地蔵尊建立当時の関係者の子孫、親戚の人たちには写真などの資料を提供して欲しいと阿部さん。

今月6日から15日までは春の交通安全運動期間。19日には交通安全故抑止市民大会も開かれる。春の陽気についても緩みがちになるが、お地蔵さんが市民を見守っていることを忘れないで欲しい。



毎年7月23日に行われている地蔵尊まつり。交通安全を祈って交通安全関係者らが花を手向けている。

郷土資料館

えにわの宝もの

第九回 く 明治の教科書

近代日本の学校教育制度は明治5年の「学制」の発布に始まり、性別や身分に関わりなく教育を受ける機会が与えられました。開拓当初の恵庭は千歳村戸長役場の管轄下にあり、明治19年の「小学校令」によって子どもたちは千歳の小学校での就学が義務付けられました。しかし、現実には子どもたちが千歳まで(徒歩で)通うことは無理でした。そこで人々は私財を投じ、または寄付を募って私立の小学校を作りました。

明治20年に洞門小学校(現恵庭小学校)が創設されたのを皮切りに、島松小学校、松園小学校が次々と作られました。この時代は本格的な開拓期を迎え、生活は決して楽ではありませんでした。人々は教育の重要性を認識していたのです。これらの学校は明治30年に恵庭に戸長役場が設置されると公立小学校になりました。写真は明治34年発行の算数の教科書と、鉛筆やノートの役目をした石墨と石盤です。机と椅子は昭和36年に廃校になった島松川上小学校で使われていたものです。

